

対米英開戦から半年後、戦局が急速に悪化し、1943（昭和18）年に入ったころからは戦時色がこもって以上に濃くなります。食糧も物資の不足も深刻になっていきます。その頃、京都の子どもはどのような生活をおもっていたのでしょうか。すべてを語り尽くすことはできませんが、ここではあまり知られていない二つの側面を見てみましょう。

まず、中等教育学校の生徒に次いで、国民学校の児童までもが本格的に食糧増産などのために学校行事として労働に従事することとなったことがあげられます。すなわち、京都における「学童労働配置」の始まりです。

食糧増産へ労働従事に

写真①は、44昭和19）年11月ごろの紫竹国民学校北校区で撮影された、学校農園での写真です。現在の紫竹グラウンド

南側で、グラウンドをサツマイモ畑にする作業の中で撮影されています。この時すでに、学校行事として農耕の時間があったので、右下に写るのは校長先生で、軍服をモデルに作成された標準服である「国民服」を着ています。

すべての人・モノを戦争のために総動員するとすべの「特別」という制のもとでは、他の国民学校でも児童が労働に駆り出され、校庭の一部が畑になっていきま

らいた。この「特別」という意味では、記念写真を撮るなど特別な計らいがなされたということです。

今紹介した写真は、学校歴史博物館（下京区）で開催中の企画展「戦争と学校」展後70年をむかえて、展示されています。（水休休館）

急行の京都駅（現阪急大宮駅）から桂駅まで電車

で移動し、写真②のように桂の農園で作業に従事して、父や兄、先生などの出征を覚悟する経験を受けて、特別な扱いを受けました。このような出征軍人を出した家庭の子を集めた集合写真は、各学校で撮影されていたよう

です。京都市学校歴史博物館で撮影されています。

写真③は、45昭和20）年5月に西陣国民学校（上京区）で、父が出征している1年生の子を集めて撮影された写真です。左奥には校長先生が見え、児童はほとんど

り、その後には記念写真も撮影されています。

写真④は、45昭和20）年5月に西陣国民学校（上京区）で、父が出征している1年生の子を集めて撮影された写真です。左奥には校長先生が見え、児童はほとんど

り、その後には記念写真も撮影されています。



写真1、紫竹国民学校の学校農園での集合写真（1944年11月ごろ）



写真2、淳風国民学校の学校農園での作業風景（45年）

写真3、西陣国民学校で父親が出征している1年生たちの集合写真（45年5月）



写真4、淳風国民学校の学校農園での作業風景（45年）

写真5、西陣国民学校で父親が出征している1年生たちの集合写真（45年5月）